

中心的な歴史的事象を意識して

ー第6学年「東京オリンピックへの道」の実践を通してー

柏 木 俊 明

1 はじめに

子どもは、日々様々な事象に直面する。その事象について自分なりの分析をし、自分自身はどう考えるのか、どうすべきなのかを判断することとなる。こうした分析、判断を繰り返し、自分自身の生きていく道を決め、進んでいくこととなる。

歴史学習の一面は、これまでの歴史の中における事実や現在に至る社会の有り様を人やもの、ことを通して学ぶことである。そうして、歴史や社会に対するものの見方を広げ、考え方を深め、さらに、自分自身の生活していく上で、事象に対する分析や判断をより高めていくことができる。

また、子どもが歴史の事象に対しての意識を高めれば、自分との歴史的な事象をより身近な物に感じ、さらに事象に対して深く考えることができると同時に、事象を追究した経験は、自分自身の分析や判断にもどってくると考える。そのために、歴史的事象をできるだけ子どもに意識付くように内容や手だてを考え、実践を試みていくことにした。

2 歴史学習を取り扱う事象

(1) 中心的な事象

小学校の歴史学習では、人物中心に学習が進められることとなる。歴史上の人物の生き方を通して、自分の生き方を考えるのである。それと同時に、歴史の上で様々な事象が起こっている。人物を追究する中で、人物の生き方と関連する事象をつなげて考えていくことは必要である。しかし、事象ばかりが先行してしまうと、小学校での歴史学習としては、知識の詰め込みに陥ることにもなりやすい。

そこで、歴史上の中心的な事象を取り上げ扱うことが大切となる。中心的な事象と事象の間には、様々な諸条件が入り込んでいる。中心的な事象を考えることで、そこに至る大きな歴史的な変化をもたらした条件などを追究することができる。そうして中心的な事象を切り口に学習を進めていくことで、その時代の全体像を掴むことができる。

(2) 関心のある事象

中心的な事象であっても、個々の興味関心がもてるような歴史的事象を扱うことによって、一層深く学習することもできると考える。特に、子ども達が、身近に感じる事象や世興味のある時代の事象には関心が高い。そこで、できるだけ子ども達が関心のもてるような事象を精選していくことが必要となる。

3 研究仮説と分析の視点

(1) 研究仮説について

本研究では、研究の視点を次のように考えた。

視点1 大きな変化が見える歴史上の事象を取り上げれば、問題意識も高まり、追究の意欲も湧くであろう。

視点2 子どもが身近に感じる歴史上の事象を取り上げれば、意欲的に追究を行うであろう。

(2) 単元の概要

① 単元について

戦後の日本は、大きく変貌を遂げた。戦後改革とともに憲法が変わり、日本の柱そのものが変わってきた。戦争直後に荒廃した社会の中で、新しい社会を創り出そうと、人々は力を寄せ合った。また、食糧難や貧窮の中から、より豊かな生活にしようと知恵を出し合い、努力してきた。こうして、少しずつ日本は復興し、もう戦後ではないといわれた1960年代、高度経済成長のまっただ中に入り、日本経済は大きく飛躍することとなった。こうした飛躍は、経済大国としての日本の礎をつくったのである。この高度経済成長の時期までの社会の変遷を考えていくことで、戦後日本の変革と今日の日本の生活が、戦後の人々の努力によって創られてきたものだということを知ることができる。また、そこに生きた人々の気持ちを考えることができる。そのことによって、児童は社会を創っていくための示唆を得ることができる。

本学級の児童は、多くが歴史に対して興味をもち、知識をもっている。また、安土桃山時代や江戸時代などの本に興味をもって読む児童も多い。これまで、戦争中のことは中学年で学習したり、旅の学習などで当時の様子を考えたりしてきているが、戦後から現在の繋がりについて少しでも考えたことがある児童は37%と少ない。また、戦後についての話をいろいろな人から聞いたことがある児童は20%となっており、現代にかなり近い歴史も身近な存在でないことがうかがえる。

② 指導目標

○第二次世界大戦後、我が国が民主国家として新たに出発し、国民生活が向上するとともに、国際社会において重要な役割を果たしてきたことが分かり、日本のこれからの課題について考えることができる。

○生活用品の比較や身近な人々への聞き取り、映像資料などから調べることにより、戦後の我が国の様子の変化を、東京オリンピックの開催を糸口にして考えることができる。

③ 指導内容と計画……………7時間 (本時 第一次 第1時間)

- 第一次 東京オリンピックはなぜ成功したか?……………1時間
・東京オリンピックの様子 ・民主化 ・国際化
- 第二次 成功のカギを追究しよう。……………3時間
・テーマごとの追究
- 第三次 成功のカギを発表しよう。……………2時間
・日本国憲法 ・戦後改革 ・社会の復興 ・国民の気持ち
- 第四次 これからの日本の道を考えよう。……………1時間
・日本の課題

(3) 本時実践の概要

① 授業設計の焦点

本時は、戦後の復興として高度経済成長のシンボルである東京オリンピックを取り上げる。まず、東京オリンピックがどのように行われたかを知ること、終戦直後と大きく変わってきていることに気づくようにする。ここでは、東京オリンピックを具体的にとらえ、考えるための手だてとなるように、ビデオや当時の新聞記事を活用していきたい。次に、そのオリンピックがどのようにして成功していったのかを予想し考える場を設ける。そうすることで戦前の様子とオリンピックの様子を比べることができ、東京オリンピックを成功させるに至る社会の変化に気づくことができる。さらに、予想した理由をはっきりさせると、意欲をもって今後の追究活動ができるであろうと考える。

② 本時の目標

東京オリンピックの様子をもとに、大会が成功した理由を考えることで、戦後の日本の社会を調べる意欲をもつことができるようにする。

③ 準備

東京オリンピックのビデオ、当時の新聞記事、戦後直後の写真

④ 評価の観点

意欲・態度	東京オリンピックの様子や戦後の社会の様子を調べようとする。
思考・判断	東京オリンピックが行われた事実をもとに、大会が成功した理由を予想し考える。
技能・表現	東京オリンピックの様子や戦後直後の様子を資料などから読みとることができる。
知識・理解	終戦直後から東京オリンピックの時代に向けて、社会は大きく変化してきていることが分かる。

⑤ 学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ
1 終戦直後の東京の様子から、気づきを発表する。 ○街が荒廃した様子	1 写真から終戦直後の様子を意識づけ、このようになった理由をつかむようにする。 ・写真をじっくり見るようにし、これまでの学習をふり返ることができるようにする。 ・いつの写真か明確にするようにする。
2 東京オリンピックのビデオをみて終戦直後との様子の違いを見つける。 ○たくさんの国の参加 ○大きな競技場	2 東京オリンピックのビデオを視聴したり、写真を見たりすることで、終戦直後の様子と比べながら、街の建物などが新しく建ち、様子が変貌している事実気づくようにする。
3 学習課題をつかむ。	3 変化に疑問をもつことで、課題をつくり本単元のめあて意識をもつようにする。
東京オリンピックへの道をさぐる。	
4 東京オリンピックが成功した理由を予想し発表する。 ○戦後の改革 ○戦後の経済の復興 ○憲法の改正 ○経済的な復興 ○選手の強化策	4 オリンピックが成功した理由を次の手だてで予想できるようにする。 ○新幹線、首都高速などの交通網をつくり経済的に整備しようとしたこと。 ○外国の参加が多いという点から、国際的に関係をよくしていったこと。 ○民主的に行われるようになったという点から、憲法が変わっていったこと。 ○選手の育成の必要性から、戦後に制度の改革が行われたこと。 ・理由を考えるための時間を十分とるようにする。
5 予想を整理し、本時のまとめをする。	5 ◎子どもからでた意見を、まとまり毎

に板書し焦点化することで、仮説まで高めるようにする。

- ・予想した内容で、疑問や曖昧な点を出し合うようにする。
- ・一番調べてみたいまとまりを、追究していくこととする。

4 授業実践の分析と考察

(1) 分析の視点①について

本時では、時代を大きくとらえるために、写真①、写真②を比較し、課題がもてるようにした。写真①は、1945年の東京大空襲によって、街が破壊され、避難している写真である。子ども達はその写真を見て、「街が壊されている」「電柱しか立っていない」「車を押して避難している」といった事実を見つ出していた。

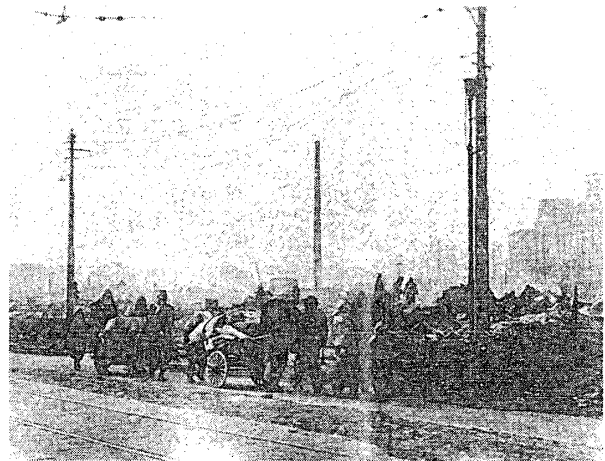
一方、写真②は、1964年の東京オリンピックの開会式の写真である。この写真からは、「多くの国が参加している」「多くの人が参加している」といった意見を多く出していた。

写真②の開会式の様子イメージをもっと膨らませていくために、東京オリンピックの映像を流した。その映像の中からは、15年戦争の中で、日本と戦った相手国（アメリカ、当時ソビエト）の国やニュースなどで耳にするアフガニスタンもその中に含まれていた。そうした国が含まれていたということは、当時の日本と他の国との関係に驚く子ども達もいた。また、参加した国の数が94カ国ということも驚いていた。

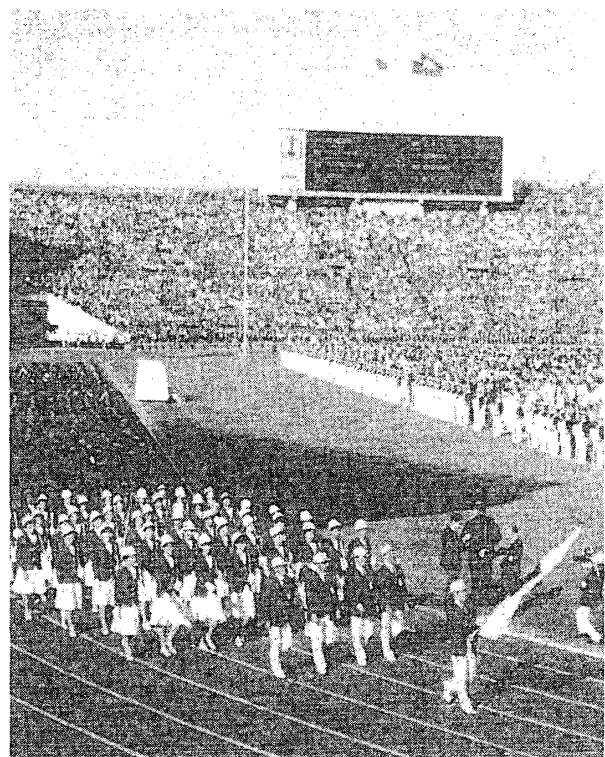
こうした同じ東京という場所で、違った時代の二つの場面において、見るからに大きな変化があったことに気がついた。その間が約20年という短い期間であったことも、驚いているようであった。

この二つの場面から、「どうして変化する事ができたのだろう」と発問した。この発問に対して、様々な観点から予想が出されれば、課題をより意識し、疑問に答えようとする追究の意欲が高まったことに繋がると考えた。

子どもからの予想は、「外国との関係が良くなっていったから」「朝鮮戦争があったから」という反応に集中した。外国との関係については、東京オリンピックの参加国をから予想をつけることができる。しかし、朝鮮戦争については、子ども達自身の学習によるものだ



写真①



写真②

と考えられる。

これ以外に予想はあまり出なかった。その原因として考えられるのは、第一には写真②が東京オリンピックという事象であり、街の様子が伝わる内容ではなかったということであり、写真①と同じ街の観点から変化を考える必要があった。その街から、変化を見とる事で、社会的な変化や建物の変化など広く変化を捉えることができる。そのため、東京オリンピックにかかわって街が変化していることが分かる資料を出すことで、子どもの考えの流れがスムーズにいったのではないと思う。

原因の第二には、大きな変化に対する興味関心という点である。二つの資料は、確かに大きな変化を示していた。しかし、子ども達の関心からは十分適していなかった。子ども達は、進んで内容を学習している。その子ども達をも、不思議だと感じられるような資料ではなかった事が考えられる。子ども達のそれぞれの実態がある中で、さらに追究の意欲が湧いてくる資料を精選する必要があった。

(2) 分析の視点②について

子ども達は、東京オリンピックが開催されたことは、これまでの生活の中から、見聞きしてきている。時にテレビなどで、東京オリンピックの映像が流されることもあり、随分昔のこととして思っていない。また、メディアに取り上げられることから、子ども達は事実として身近に感じていると考えた。

子ども達は、「戦後約20年の間に大きな変化があった」という捉えから、何がその原因となったのか、「産業」「戦後の変化や改革」「国際関係」の3コースに分かれて追究することにした。子ども達は本やコンピュータなどの手近にある資料を用いて、発表するための資料を作ることができた。しかし、調べた内容の中には、身近な人からの聞き取りはあまり見られなかった。

こうした点から、この東京オリンピックを取り上げた教材が、子ども達の意識の中で、意欲を増したかという点で、十分ではないことが分かった。その原因として考えられることはまず第一に、子ども達にとって、東京オリンピックという事実は見聞きしている事象ではあるけれど、単なる事象として取り上げたために、それまでもっている考えの域から出なかったのではないかと考えられる。第二には、事象という点でのかわりではあったが、子ども達にとっては、さらに関心意欲の湧く具体的な内容に絞り込む必要があった。子どもにとって、既に知っている内容であるならばその実態を踏まえて、この教材の切り込み口を他に工夫する必要もあったと考える。

5 まとめ

子ども達に歴史的な事象から、様々な視点をもてるように工夫し、考えることができるようにする必要がある。そのためには、本単元で行った、身近な教材を単に事象として提示するだけでなく、事象のもつ具体的な点を提示するなど、子ども達の実態も考える必要を感じた。いくら中心的な事象であれ、教材のもつ良さがあっても、その良さが十分子ども達に伝わらなければ、意味はない。子ども達が、歴史事象に驚きや疑問をもって出会ったとき、始めて子ども達の中に入っていきように感じた。身近なものであればあるほど、逆に違った視点を子ども達に与えていくことで、その事象は生きてくる。これから、歴史的な事象についても、ねらいを見定めつつ、様々な角度から子ども達が興味関心をもち、追究できるような取り組みをしたいと考えている。

参考文献

- 1) 松尾尊兌 著、『日本の歴史21 国際国家への出発』、集英社、1993
- 2) 本郷左千夫 編集、『親から子へ伝えたい 昭和の子どもたち』学習研究社、1989